

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域密着365日すぐやる・必ずやる・できるまでやる、すべては利用者様のために」を掲げている。また理念記載の手帳を全職員へ配布し毎日朝礼にて唱和。	「経営計画書」他を網羅した小手帳にはあらゆる指針の掲載があり、職務上で迷いが生じた場合などの再確認や法人の方針を読み解くことができ、理念等の理解に欠かせないものとなっている。小手帳は、毎年新規目標等、最新情報を掲載しているため4月に改訂し新手帳を発行している。ホームの年間目標としてスローガンを定め事務室内に掲示し、職員は日々確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内にお祭りに参加。今後の課題として地区の行事等に参加し交流する機会を設けていく。	年2回自治会費を納めている。ホーム開設時、顔合わせの挨拶のため自治会三役会に出席し、本格的なホーム運営に先駆け理解を得るために出向いたという。地区主催の勉強会、「地域ケアシステム」講演会にホーム長も参加し「グループホームができることや利便性について」話をした。また、8月に行ったホームの「夏祭り」では地区各戸にリーダーと職員が100枚のチラシをポストイングし、当日は多くの住民の参加をいただき、五色流しそうめん、風船釣り、スイカ割り、国宝松本城和太鼓演奏などの催し物で賑わいを見せたという。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在地域住民の理解が得られない地区も残っているが、開所時に行った認知症セミナーには多くの方が参加して下さいました。また今後の課題として受け止めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では入居者様の現状報告、行事等の報告を行い、地域の方から意見を頂いている。また、他施設での取り組みをお話して頂き参考としている。	家族、町会長、民生委員、薬剤師、市関係者等の参加をいただき定期的に開催している。開設して間もないが、地域密着型サービスとしての役割の一環として災害時のホーム利用を提言したり、活発な意見交換を交わしホームへの理解に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所より電話やSNSにて情報を頂き、資料やアンケートに返答。また、市の広報誌や回覧板を届けて下さり、地区の行事等出来る限り参加している。	運営推進会議を通して関係を構築し、相談等、様々な分野で連携している。介護認定の更新手続きに関してもホームで行う方がほとんどで、資料提供等の協力を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束はなく生活支援を行っている。基本的に玄関に鍵はかけず対応をしている。	身体拘束をしないケアについては開設前の職員研修で話し合い、実践している。ホームの方針として言葉遣いについても徹底がされており、利用者が穏やかに過ごすことができるようにしている。身体拘束についても「経営計画書」小手帳への記載があり、それを活用し朝礼時などで理解を深めている。	

グループホーム岡田松岡

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてのマニュアル、研修の時間を設けている。虐待と考えられることがあれば検討し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度については現在学ぶ機会がないため、今後の課題として役立てたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分に時間頂き、説明を行っている。解約については事例がないため今後備え、玄関に意見箱を設け不安や疑問点などを収集している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設けている。運営推進会にご家族様をお呼びし生の声を伺い、ミーティングにて職員へ報告する機会を作っている。	利用者のほぼ90%の方が自身の意見や希望を表出することができる。伝えることができない利用者には、利用前の生活歴や利用後の様子等を総合的に判断し、「決めつけない介護」を合い言葉に職員が話し合い気持ちを受け止めている。家族会は夏祭りを兼ねて開催し、多くの家族やお孫さん達も参加し、食事会やビンゴゲームなどで楽しい時間を共有することで職員との顔合わせと相互理解に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングの前に事前にアンケートを配り、意見や要望、提案を記入して頂き、再び会議にて職員全員で話す場を設けている。	法人として人事考課制度があり、年2回(半年に一回)、管理者と個人面談をしている。職員は期初に立てた目標をふり返り、また、見直し、日頃の悩みや困りごとを相談するなど、意欲の向上に繋げている。「飲コミュニケーション」と銘打ち、管理者と職員が食事をしながら交流を深め、風通しの良い職場環境を築こうと努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員、出勤時間10分前より環境整備表に基づき行っている。また年2回環境整備点検を実施、各施設との比較によって改善し整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員ひとりひとりのスキルアップを図るため、いくつかの研修リストを配りその中から参加を希望するものを選ぶように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在同業者との交流が出来ていないため、今後の課題としたい。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	良いと思ったことはすぐやる！と法人の理念にもあるように、入居者のニーズにすぐ対応できるよう職員のスキルアップにも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの際には、ご家族の思いや希望を伺っている。ホームには意見箱を設置。毎月のお便りにはご意見を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が必要としているかを見極めるため、実践し結果をもとに安心して利用できるサービスの説明を行い判断を委ねている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と一緒に何かをすることを大切に、家事についても分担し行えるよう工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	信頼関係を築くため、関わる機会を多く設けている。また、ご家族が来やすいホーム作りを心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出は制限なくご希望に添えるよう配慮している。昔から行っていたクラブや会など継続参加を積極的に促している。	事前に家族等から面会許可を受け、ホームとして面会者を把握している。その上で友人や兄弟等の訪問をいつでも受け入れられるように態勢を整えている。電話を掛けたいとの希望があれば職員はいつでも答えている。整髪に関しては美容師の方に来訪していただいております、新たな関係づくりの支援もしている。	

グループホーム岡田松岡

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	グループホームは1対1のケアが多いため、話す時間を作っている。また、入居者との間に入り会話弾むよう心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事例がなく今後の課題である。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人が選択出来るように提案。日々の声お話しした言葉を拾い職員で共有。ダメという言葉は使わないよう心掛けている。	自身の思いを表出できる利用者がほとんどで、着替えの洋服選びや手作りおやつ選び、余暇時間の使い方など、選択肢を多くし働きかけをしている。思いを上手に表出できない利用者のつぶやきや意思表示があった時の言葉等をアセスメントシートなどに記録し、日々のケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人とお話しをし馴染みの暮らしを引き出している。ご家族から情報収集し昔からの生活感を大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士で話し合いの場を設け、入居者様について情報の共有を行っている。また、担当制にすることで、現状の把握がしやすい。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様面会時に、モニタリングのお時間を頂き、現状でご家族様の希望等伺っている。	職員1人で1、2名の利用者を担当している。計画作成担当者はケアプランに照らし合わせ現状把握を行い、支援内容に変化が見られない場合には半年に一度の見直しとしている。また、状態に変化が見られた場合には随時の見直しをかけ、現状に即した支援内容に変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々様子、気づきを個人記録へに記入。担当制にし1対1でお話しが出来るような工夫を行っている。		

グループホーム岡田松岡

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の日常生活において、入居者様のやりたいこと希望を伺い、介護計画に取り入れながら叶える工夫に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム周辺に畑スペースを設け、野菜作りを実施。入居者様と一緒に耕し、採れたての野菜を料理に取り入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様には出来る限りご協力を頂き、受診付き添いをして頂いている。また近隣の医療機関を利用することにより、緊急の受診など連携体制の充実を図ることが出来る。	三分の一の利用者は利用前からのかかりつけ医の往診を受け、三分の二の利用者が協力医での受診で職員が付き添い対応している。また、「緊急カード」を作成し、万が一の場合に救急隊員に渡し、速やかに情報伝達できるようにしている。看護職員とは24時間連絡がとれるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調管理は毎日行うことで、変化に気が付きやすくしている。また、介護員は受診対応を行っているため、看護師または医師へ相談できるよう情報共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院やご家族との情報交換を密にし、入退院時のストレスや負担が軽減されるよう、普段の状態や特徴など、支援方法を詳しく伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、重度化した場合、終末期のあり方等についての説明を行っている。早期にご家族とお話する機会を設け、希望に沿った支援に努めている。	看取りになった場合には利用者や家族等との話し合いを踏まえ、医師や看護師と連携をとり、ホームとして適切な支援を行えるように体制が整えられている。経験豊かな職員が多く、家族の要望にできるだけ全員で応えられるようにホーム内での研修にも力を入れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時に備え、マニュアルを作成し会議等で確認を行っている。また、定期的な訓練を実施し見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災管理についての指導・訓練教育を行っている。また、地域の方へ施設を提供するよう呼び掛けている。	火災を想定した避難訓練をホーム開設前の職員研修時に行い、職員が利用者役になり避難、消火等の訓練を体験した。実際に体験することにより実態が把握でき、災害時の円滑な避難に活かすことができるようにマニュアルなどの見直しも行き、中でも、消防署のストレッチャーが思いのほか長く、一部直角の廊下をスムーズに曲がり切れないという課題も発見でき対策も打たれたという。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的には敬語や尊敬語での対応だが、方言もあり慣れ親しんだ言葉も取り入れながら声かけに工夫している。	職員に毎年配布される「経営計画書」他の小手帳の中に接遇に関する方針として6項目あり、その5番目に言葉遣いについての指針が記載され、朝礼時に項目別に読み合わせをし意識を高めている。利用者の人格を尊重した言葉かけが交わされ、気遣いも感じられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に入居者様の希望に添えるよう考え、いくつかの選択肢を作り自己決定できるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前中お茶を一緒に飲み、時間をゆっくり使って頂いている。一人一人過ごし方が異なるため、伺いながら日々実現できるよう工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のご希望に添えるよう、入浴前の準備等、着替える洋服を選んで頂いている。訪問美容師を頼み定期的に散髪が出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切って頂いたり、盛り付け等ご自分で行き、調理も楽しみとなっている。また味見をしていただくことも取り入れながら工夫している。	福祉献立をメインとした業者を利用しているため、経験のない男性職員や珍しい料理についても、手順ガイドと調味料付きで美味しく出来上がり、食材の無駄が出ないという利点がある。また、食材調達や献立を決める時間を利用者サービスに向けることもできている。訪問当日の昼食を利用者と一緒に撮ったが、味と彩りもよく利用者の方々も完食されていた。利用者のリクエストにはおやつの手作りなどで対応している。ほとんどの利用者が自力で食事ができ、職員と味や料理の話をしており、楽しい食事の光景が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材サービスを利用することで毎日のメニューが決まっており、カロリー設定栄養バランスの確保がしやすい。また10時、15時にはお好みのドリンクを選び提供するという工夫をしている。		

グループホーム岡田松岡

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食時声かけを行い、義歯の方は外して頂く。夜間のみ義歯は洗浄剤につける。うまく磨けない方は重層を水に溶いてうがいをして頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声かけ、トイレ誘導を行い、トイレでの排泄を習慣づけ自発性を引き出している。またオムツを使う回数を少なくすることへつなげている。	ほぼ四分の一方には声掛けと誘導で促しているが、残りの利用者は自立している。排泄表も付けており、半数の方が布パンツ使用で自立の方については自己申告で対応している。ホームとして自然な排泄を促すために毎日牛乳を飲んだり体操をし、日々の生活の中で家族等とも相談しながら健康面での支援に工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日一回乳製品を取り入れている。また味噌汁にオリーブオイルを入れたり工夫。食事前には体操を取り入れ腸の運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を嫌がる方へは毎日声かけを行っている。また好みの音楽をかけることで気分よく入浴して頂く工夫をしている。	二人介助の方が若干名おり、残りの方もほぼ一部介助となっている。週2回の入浴を基本に、時間は自由に対応している。また、排便などで汚れた場合はシャワー対応とし、清潔に配慮している。季節に合わせて冬至にはゆず湯、節句には菖蒲湯など、楽しく入れるような機会も設けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋の照明、外部の音、床暖のため室内の温度調整にも気を配っている。また馴染みの布団の持ち込み、パジャマの素材にもこだわり安眠できるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご本人の訴えや状態を把握し、お薬が必要が常に考え、看護師、主治医と連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事全般など分担し、入居者様自ら行っている。以前から習慣で作っていた食べ物をお聞きし、毎日の食事に活かしている。また、近隣のお店へ買い物に出かける機会を作っている。		

グループホーム岡田松岡

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節感を感じられる外出を大切にしている。また、近くの喫茶店へ出かけいつもと変わった場所でお茶を楽しむ機会を設けている。	昼食が終わると、「今日は天気がいいので、ちょっと散歩に」と、訪問当日も気軽に出かける姿が見られた。近くの池にカモが来るので職員と見に出かけたり、ホームの周辺を一回りしたり、また、日常的にホーム駐車場などで外気浴も楽しんでいる。花が咲いているとの情報が入るとドライブに出掛け気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	消耗品がなくなった際には、近隣のお店へ買い物に出かける機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前にお家族様の都合の良い時間帯を設定し、電話をかけて頂いている。お手紙については今後の課題であるが、年賀状などご希望に添えるよう準備を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースにはお花や入居者様の手作りの作品を飾っている。カーテンを利用し、光と明るさの調節をしたり、常に室温や湿度を一定の温度に保つよう工夫している。夜間は音を立てないよう職員のスリッパ等気を配っている。	2ユニットの平屋造りで日当たりと採光を考えた南向きの細長いホームである。台所の調理台はアイランド型でぐるっと一周でき居間兼食堂を見渡せ、使い勝手の良い設計になっている。廊下には、利用者の家族が描かれた絵画が所々に飾られ、雰囲気柔らかくしている。居間兼食堂からは居ながらにして市内の神社の花火が見られ、立地条件にも恵まれたホームである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各ユニットごと廊下の突き当りにソファ、テーブルを設置し、並んでお話しできる空間を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際ご家族、ご本人へ使いなれた馴染みのものの使用をお願いしている。また昔使用していたものを観賞用に置いておく工夫をしている。	居室には可動式の大きなクローゼットと洗面台、エアコンが備え付けられている。壁には余暇時間に作られた作品や絵を飾り、なじみのタンスなども置き、過ごしやすい居室となっている。居室の掃除は毎朝職員が掃除機とモップ掛けをし、一緒にできる利用者はごみ箱の中まできれいに片付けているという。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活において、行っていく中で一人一人の出来る事を発見し、習慣付けるよう工夫している。		